

ブランドの一翼を担う

国 道から十川の赤鉄橋を渡って右に折れ四万十川沿いを2kmほど行く。

まず「ライダーズイン四万十」がある保木、広井大橋の袂の中組、神社や集会所のある実弘、さらに下ると温泉のある柳瀬。そして四万十川に流れ出る2つの谷川に添ってできた集落が、それぞれ井崎谷と相後。井崎はこれら6つの集落から成っている。

どの集落も、後ろに切り立った屏風のような山を控えている。これらの山に先人が石垣を積み、いくつもの細長い耕作地を造ってきた。今ではこの畑の多くに茶の木が植えられ、井崎らしい風景のひとつとなつている。



広井大橋の袂にある製茶工場はシーズンになればフル稼働。対岸の広瀬地区と共に「十和のお茶」のブランドの一翼を担っている。

人気の栗きんとん

地 元の栗や大豆を利用して婦人グループが羊羹や栗きんとんを作っている。羊羹はもう作り始めて30年にもなるそうだ。最近では栗きんとんが人気商品となり、これまでに以上に頑張っている。とはいえ、そんなに収益があるわけでは

ない。「年収は？」と聞かれたときに『5〜6万円』と応えると、『月収ですか』と必ず問い返され落ち込むこともありました。でも、たとえ収益は少なくても、メンバーの仲が良く、ずっといっしょに続けてこれれたことが財産だと思っています。と、グーループの方が語ってくれた。



十和錦発見・発祥の地

と ところで井崎は、香り米「十和錦」発祥の地である。発祥というよりも発見といった方が良いのだろうか。相

後谷を少し奥へ入ったところにおられる上山さんご夫妻が、約50年前に発見し、この品種を大切に守り続けてこられた。それでもさすがに50年前とは形も味も変わってきたという。それが今年、原種に近い稲が実ったそうだ。それを、また来年から育ててみよう、意欲に燃えているそうだ。



新しいことに挑戦しようとするこの地域の人たちを見てみると、必ずしも恵まれているとは言い難い地形の中に、少し違う風景が見えてくる。

知ってるようで知らない私たちの町 ⑨

険しい地形もどこ吹く風
新しいことに取り組む気風

い さ き

井崎